

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 20 日現在

機関番号：32693

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009 年度 ～ 2011 年度

課題番号：21390576

研究課題名（和文） 治療的介入方法としての看護師の“手”の有用性
—統合医療における手当学の構築—研究課題名（英文） The benefits of nurses' 'hand touch' as a therapeutic intervention technique:
structuring the science of 'TE-ARTE'(touch-based therapy) in integrative medicine

研究代表者

川嶋 みどり (KAWASHIMA MIDORI)

日本赤十字看護大学 看護学部 教授

研究者番号：70367217

研究成果の概要（和文）：看護師の“手”を用いたケアの有用性を、具体的な実践と基礎的研究の両面から追求し、臨床的応用の可能性について一定の知見を得た。また、他領域で実施されている手技を看護技術にとり入れる方向性も示唆された。キュア志向の医療からケア重視へと変革する上で、“手”を用いたケアの理論的構築とその普及を図る意義は大きい。未来医学を志向する統合医療の一端を担う手当学の構築については、その方向性を示唆されたものの今後の課題でもある。

研究成果の概要（英文）：The previous study investigated the benefits of care utilizing nurses' 'hand touch' from the perspectives of basic and clinical research. The findings provided insight into the potential for clinical application and suggested directions for incorporating procedures implemented in other fields into nursing techniques. With the transition to more care-oriented rather than cure-oriented medicine, the theoretical development of care utilizing nurses' hand touch, 'TE-ARTE', and the popularization of this type of care are valuable. Further investigation is required to obtain additional details regarding the approaches toward structuring the science of 'TE-ARTE', which constitutes part of the integrative medicine in the future.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	8,200,000	2,460,000	10,660,000
2010 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011 年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
年度			
総計	13,900,000	4,170,000	18,070,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：看護師の手、緩和ケア、癒し、タクティルケア、TE-ARTE、統合医療、手当学

1. 研究開始当初の背景

- (1) 手を用いて患者を癒す方法は一見未分化であるが、皮膚を介して患者の体表からの情報を得ることができ、ケアの受け手の必要とする何らかの変化(反応)を引き起こすことができる。
- (2) 近年の医療現場では、IT 業務によって看護師の手を用いたケアの頻度が著しく減っていることは、入院体験者らが多く語っている。一方、癌性疼痛などへの薬物療法は進歩してきたが、化学療法の副作用や末期症状である嘔気や倦怠感等の緩和策は未確立である。
- (3) たとえ疾病の根源的な治癒に向かわなくとも、種々の苦痛や不快、不能にからむ不安を軽減する上で、看護師の手を用いたケアが強く求められている。
- (4) 看護の領域以外でも、手を用いて患者を癒す方法が用いられており、その優れたわざの有用性と方法について学び、これを看護に取り入れることの可能性は多分にある。
- (5) 近代西洋医学の多彩な貢献を認めつつ、旧来の伝統医療や代替療法等を併せて統合医療を確立する動きがあり、その一翼を担う意味からも看護師の手のわざを明らかにする意義がある。

2. 研究の目的

本研究は古くから看護の原点とされてきた看護師の“手”に関する研究で、次のことを明らかにする。

- (1) 看護師らが実践してきた“手”を用いたケアの種類をその実態と意識を明らかにする。
- (2) 看護師の“手”が患者の安楽を図る有用なツールであることを、主観的データならびに生理学的データを統合して検証する。
- (3) 他領域で行っている優れた“手”のわざの手技を学び、その有用性を検証する。
 - ①静的筋弛緩誘導法
 - ②タクティールケア

3. 研究の方法

- (1) 実態調査—関東圏内の看護師を対象とした自記式質問紙調査。
- (2) 手のわざの癒し効果の基礎的研究。
 - ①生体負荷のかからない生理評価指標を

用いて、自律神経活動の評価、深部温モニターによる深部温、末梢循環状態の変化／高次脳機能評価／末梢に現れた免疫反応等により身体への影響を明らかにした。

- ②主観的反応の評価については、主観的反応評価尺度を用いて、気分／情動の変化、ストレス反応の緩和、視覚的 VAS 等による感覚反応、言語による内省報告などを用いて評価を行った。
 - ③ケア実施後のインタビューにより、手を触れるアプローチの心理・感情面の効果を測定した。
- (3) 臨床場面における身体ツールとしての“手”の効果の検証。
 - ① アロマセラピーの施術室及び実習室で音楽を流しながら好みの香りのオイルを用いてホリスティックタッチ (HT) を全身に行い、終了後、血圧、脈拍、唾液中コルチゾール、心拍変動(5 分間)を測定した。
 - ② 入院中または退院後にリラクゼーション外来受診の 10 名に対して緩和ケアマッサージを行い、前後の状態を比較して介入効果を明らかにする。
 - ③タクティールケアの研修を受けた看護師と介護職者 13 名に対して、認知症高齢者への本法の効果と実施に当たっての困難について半構成的インタビューによって明らかにする。

(4) 手のわざの癒しの効果研究。

- ①高齢者 19 人に対して着衣の上からの軽擦法による背部マッサージを行い、終了後の唾液アミラーゼ、心拍変動測定を行い効果を検討。
- ②タクティールケアのリラクゼーション効果を明らかにするために 42 名の健常高齢者を 2 群にわけ、実験群は臥床して左手にタクティールケア、コントロール群は臥床安静のまま、心拍数、皮膚血流量、皮膚表面温度、気分尺度等により心身両面の比較を行う。
- ③静的筋弛緩誘導法の理論のわざの学習と模擬体験。

4. 研究成果

- (1) 静的筋弛緩誘導法の学習・疑似体験を通して手で「触れる」ことの意味と看護への活用を明らかにした。
- (2) 医療施設、介護施設等で働く看護師の手を用いたケアの実態調査により、看護師は患者の症状緩和や安楽を図るために手を用いたケアを実施していると答え、その必要性を認識していたが、熟練度は高くな

かった。今後の教育・研修の必要性が示唆された。

(3) タクティールケア

① 認知症高齢者へのタクティールケアの現状を明らかにした。

② 高齢者に対するタクティールケアのリラクゼーション効果に関する研究（無作為比較試験）により、心拍数低下、皮膚血流量の増加、収縮期血圧の減少などの身体的側面への効果と、混乱というネガティブな気分を改善する心理的な効果が明らかになった。

(4) 身体ツールとしての手の持つもう1つの可能性—ホリスティックタッチ（HT）によって得られる生理的・感覚的反応に関するパイロットスタディにより、ヒーリングを意図したホリスティックタッチによって、心拍数の減少と主観的な温かさ、気持ち良さの反応が見られたことから、この方法は、ストレスを軽減し、安心感やリラックス感を促進する可能性があることが示唆された。今回は5事例のみであり、パイロットスタディにとどめた。

(5) 緩和ケアマッサージによる症状緩和を図るため10例の終末期患者の心身の苦痛を軽減するために行ったマッサージの実施前後の変化を比較した結果、全ての事例において客観的、主観的データから、種々の症状を緩和する上で緩和ケアマッサージの有用性が確認できた。

以上のように、看護師の“手”を用いたケアの有用性を明らかにするために、2009年度から2011年度にわたって行った本研究は、実態調査、基礎研究をふまえて、その臨床的応用の可能性についての一定の知見が得られた。加えて、他の領域において既に実施されている手を用いた優れたわざを学び、これを今後の看護にとり入れる方向性も示唆された。

折しも本研究の最終年次に起きた東日本大震災と続く原発事故は、これまでの医療のあり方を根本的に問い直す契機となった。すなわち、これまでのキュア志向の医療のありようを変革する重要な課題を達成する上でも、看護における“手”を用いたケアの理論的構築とその普及を図ることで、より人間的な質の高いケアの実践の提供が可能となるということである。さらに、患者の自然治癒力に価値をおく未来医学を志向する統合医療の一端を担う看護の可能性についても一定の方向性を示唆された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 尾崎フサ子 看護における補完療法がもつ力(2010). 日本統合医療学会会誌(3), 71-74.
- ② 千葉京子(2011). 看護基礎教育の場で学生に伝えるタクティールケア. コミュニティケア, 13(12), 30-33.
- ③ 小坂橋喜久代・柳奈津子他(2011). ホリスティックタッチによる生理的・心理的反応. 2011 国際看護協会学術集会抄録集(マルタ), CD-ROM 資料.

〔学会発表〕（計5件）

- ① 千葉京子・グライナー智恵子・川原由佳里・松尾香奈・殿城友紀・川嶋みどり. 認知症高齢者に対するタクティールケアの現状. 第30回看護科学学会学術集会(北海道). 2010年12月3日.
- ② グライナー智恵子・川嶋みどり・大石朋子・川原由佳里・木全真理・殿城友紀・松尾香奈. 看護師の手を用いたケアに関する実態調査. 第30回看護科学学会学術集会(北海道). 2010年12月4日.
- ③ C.Greiner, T.Oishi, Y.Kawahara, M.Kimata, Y.Tonoki, K.Matsuo, M.Kawahima. Comparison by facility type of nurse hand-based care. International Council of Nurses Conference 2011 (Malta). 2011年5月5日
- ④ Y.Kawahara, K.Chiba, C.Greiner, T.Ohishi, K.Matsuo, Y.Tonoki, M.Kawashima. Effects of Tactile Care for Increasing Relaxation of Japanese Elderly People. Sigma Theta Tau International's 22nd International Nursing Research Congress (Cancun, Mexico). 2011年7月11～13日(ポスターセッション)
- ⑤ 川原由佳里・グライナー智恵子・千葉京子・大石朋子・松尾香奈・殿城友紀・川嶋みどり. カオス理論分析を用いた指尖脈波の分析:タクティールケアの実施による変化の解明. 国際ケアリング学会(広島) 2012年3月24日

〔図書〕（計3件）

- ① 川嶋みどり・小坂橋喜久代・尾崎フサ子・平松則子・グライナー智恵子他. 触れる・癒やす・あいだをつなぐ手. 看護の科学社. 2011. 310
- ② 川嶋みどり・小坂橋喜久代・尾崎フサ子・守田美奈子・グライナー智恵子他.

触れる・癒やす・あいだをつなぐ手
TE-ARTE 学入門 第5部 手を用いた
ケアの実態調査. 看護の科学社. 2011.
294-306

- ③ 千葉京子他. 始めてみようよ タクティ
ールケア. クオリティケア. 2012. 218

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川嶋 みどり (KAWASHIMA MIDORI)
日本赤十字看護大学・看護学部・教授
研究者番号：70367217

(2) 研究分担者

小板橋 喜久代 (KOITABASHI KIKUYO)
群馬大学・医学部・教授
研究者番号：80100600

尾崎 フサ子 (OZAKI FUSAKO)

佐久大学・看護学部・教授

研究者番号：10211137

グライナー 智恵子 (GREINER CHIEKO)

日本赤十字看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：20305270

千葉 京子 (CHIBA KYOKO)

日本赤十字看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：40248969

川原 由佳里 (KAWAHARA YUKARI)

日本赤十字看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：70308287

柳 奈津子 (YANAGI NASTUKO)

群馬大学・医学部・講師

研究者番号：00292615

(3) 連携研究者

()

研究者番号：